

ジャーナリズム・政策研究所
講義要綱（2026年度）

コマスポ関連講座 I 【取材・編集、インタビューの基本を学びましょう】

(火曜日・4時限講義 ※前期のみ)

石元 悠生

この講座では、主にジャーナリズム・政策研究所が発行する「駒大スポーツ新聞(コマスポ)」で活動する(したい)学生やコマスポに興味を持つ受講生を対象に取材や編集、インタビューなどの実践演習を行いながら学ぶ講座です。例えば、「インタビュー実践」などでは、受講生が互いにインタビューを行い取材後にはどうやって相手の意図を引き出したか、質問内容が適切だったかなどを振り返ります。

また、テーマに基づいて記事を執筆し、紙面のレイアウト、動画ニュース制作の手法や SNS を駆使した取材や情報発信方法なども演習(ゼミ)形式で行うことで実際のコマスポでの取材や編集に対応できるスキルを前期の間に身につけていきます。

講座はコマスポ顧問であり、新聞記者として国内外のあらゆるニュースの現場で豊富な取材経験を有する実務家教員が担当し、ゲスト講師には一線で活躍するスポーツ新聞記者やコマスポの現役学生記者がテーマに応じて参画します。学生記者は、陸上や野球、サッカー、バレーボールなど駒大体育会の選手や大学各部門への取材経験からコマスポを作成する際の手順やプロセスについて取材のノウハウやコツを伝えます。実際のコマスポでの取材や編集活動も講座の課外活動の一環として捉え、取材指導や記事添削を行っていきます。

コマスポでの活躍を考える1、2年生、また現役コマスポ記者も取材や編集、インタビュースキルの向上を目指して積極的に参加することを薦めます。

【昨年度の講義事例】

- ・第1回 オリエンテーション：駒大スポーツ新聞編集部活動概要、活動上の留意点を理解する。加えて取材時のポイント(カメラの使用方法を含む)を学習し、その日から取材できるように主体的に実践する。
- ・第2回 スポーツ新聞について考える：サンケイスポーツ編集局長の加藤俊一郎氏を招聘し、スポーツ新聞の在るべき姿やスポーツ記者として必要なことを学ぶ。
- ・第3回 記事の書くべきポイントと赤字添削：記事の詳しい書き方や書くべきポイント(テーマ性)を学んだ後、グループで互いの記事を添削し合う。その後、ディスカッションを通じてさらに理解を深める。
- ・第4回 メディアと映像について学ぶ：新聞社から動画制作のプロ編集者を招聘し、映像メディアについて詳しく学習する。コマスポ映像班に所属していない者であっても学習しやすいように講義して貰った後、グループディスカッションを通じてさらに理解を深める。
- ・第5回 レイアウトの基礎を学ぶ：サンケイスポーツ整理部(レイアウトなど担当)記者を招聘し、スポーツ新聞におけるレイアウトの組み方について学習した後、実践形式で実際のレイアウトに挑戦する。
- ・第6回 コマスポ制作①(添削期間)：駒大スポーツ新聞夏号の添削期間中の講義。実際に自身が取材や編集した記事や顧問から修正の指摘を受けた記事を持参し、「なぜこうしたニュースになるのか」「赤字はどうして必要となったのか」などを客観的に説明できるようにする。
- ・第7回 コマスポ制作②(産経新聞期間)：駒大スポーツ新聞夏号の産経新聞でのレイアウト制作期間中の講義。教室で受講する組と産経新聞でレイアウト制作に取り組む受講生をズームでつないだ講義を展開。夏号のレイアウトの修正点を共に考え、説明できるようにする。
- ・第8回 夏号制作を終えた時点で駒大スポーツ新聞編集部に必要な基礎的な知識・技能は全て修得済み。これまでの学びを踏まえ、自身が取材や編集に携わった点について説明できるようにする。

石元 悠生 (いしもと・ゆうせい)

メディア学博士。ジャーナリスト。星槎大学大学院教育学研究科教授(星槎大学共生科学部共生科学科教授)、早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部講師。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁、フランスW杯特派員などを担当、編集委員やWebニュース編集長を務める。米国・コロンビア大学東アジア研究所客員研究員の後、東京都知事特別秘書として2020東京五輪招致活動に携わる。杉並区報道アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」(成文堂)、共著に「ベーシック地域創生」(文真堂)、「無責任の連鎖 耐震偽装事件」(産経新聞出版)などがある。JA東京ホームページで「江戸東京野菜を語る」というコーナーを連載中。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。OBには千葉ロッテマリーンズで活躍する石川柊太投手らがいる。

コマスポ関連講座Ⅱ【新聞編集の基礎－記事・見出しからレイアウト・写真扱いまで－】

(火曜日・4時限講義 ※後期のみ) 眞 下 聡

この講座は、駒澤大学のコマスポ編集部員など、サークル活動などで実際に新聞を編集している・これから編集する方向けの実践的な新聞編集基礎講座です。取材・写真撮影、記事の書き方、見出し・レイアウト・写真の扱いなど、半期の8回でひとつおりの学べるようにしています。

コマスポ編集部員だけでなく、他大学の新聞サークルのみなさんの参加も大歓迎します。発行している新聞が一般紙でもスポーツ紙でも、どちらでも大丈夫な内容にしています。実際この講座は、過去2年間で筑波大学・一橋大学・東洋大学のみなさんが受講しています。

全8回の内容は、現時点では以下のようなことを考えています。

1. 新聞・新聞記事の基礎
2. 取材の仕方
3. レイアウト・紙面割り1
4. レイアウト・紙面割り2
5. 記事執筆・見出しの付け方1
6. 記事執筆・見出しの付け方2
7. 写真撮影・写真の扱い・トリミング
8. ネット展開・販売や広告

※講座は深沢キャンパスで行いますが、オンライン配信もしますので学外の方も参加できます。オンライン配信は昨年度までのzoomから今年度はGoogle Meetに変更になりました。

※実際に新聞を編集しているサークルの方は、講座で参照しますのでその新聞のpdfを提供していただきます。

眞下 聡 (まっか・あきら)

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。1989年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。またネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年に朝日新聞を退社。「ニュース工房9Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャーナ研での講座は今年で7年目です。

【法とジャーナリズム】

(火曜日・1 時限講義)

竹 田 昌 弘

民主主義社会では、多数意見が常に正しいとは限らないので、それを正したり、少数意見を取り入れたりしなければなりません。人の体で言えば、多数決で国や社会を動かす政治（立法・行政）が体全体に血液を送るポンプの「心臓」と、酸素や栄養素を体内に行き渡らせる「動脈」だとすれば、法と証拠に基づいて多数意見の誤りを指摘し、少数者の権利を守る司法は、体内から二酸化炭素や老廃物を受け取る「静脈」のようなものです。ジャーナリズムも憲法が定める国民主権と「表現の自由」に依拠して、やはり静脈の役割を果たしていると思っています。

こうした仕組みは、主権者である国民が定めた憲法（日本国憲法前文の最初の文章は「日本国民は…この憲法を確定する」となっている）で、国や自治体などの公権力が暴走しないよう規律し、個人の自由と権利を守る「立憲主義」と、法が全ての公権力に優越する「法の支配」によって担保されています。

この講座は、法とジャーナリズムを学ぶとともに、法とジャーナリズムの視点から社会の出来事、在り方を考察していきます。具体的には、憲法、ジャーナリズムに関する法律、ジャーナリズム倫理、それらに関する事件や裁判、社会問題について学びます。また現在進行中の事件や出来事も取り上げます。それらはなぜ起きたのか、法とジャーナリズムはどのように機能しているのか、そこから社会はどんな教訓を得るのかなどを話し合います。

2025年は川崎のストーカー殺人、「令和の米騒動」、大川原化工機事件、生活保護減額訴訟の最高裁判決、参院選、読売新聞の相次ぐ誤報、石破首相の国連演説、自民党総裁選、戦後50～80年の首相4人の談話、自民・維新の連立合意、高市政権の支持率、山上徹也被告の公判などを順次取り上げました。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。大阪社会部次長、社会部次長、司法キャップなどを経て2016年から編集委員兼論説委員。つくば国際大学非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）、東京都世田谷区基本構想審議会委員も務めた。著書・編著『日本の司法 憲法裁判の現場から』『憲法ルネサンス』『知る、考える裁判員制度』『裁判員司法』、共著『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』『裁判員制度の10年』『避難する権利 それぞれの選択』『銀行が喰らいつくされた日』『裁かれる教祖』など

【新聞号外の簡単作成・活用講座】

(火曜日・2時限講義) 眞下 聡

※この講座は8回完結です。前期・後期とも同じ内容です。受講はどちらか片方でもOKです

新聞号外は、題字+見出し+写真+簡単な本文で成り立っています。シンプルですがとても強いニュース発信力を持っています。また写真だけ、テキストだけと比べ、出来事の記録という点でも優れています。

この講座では、グーグルフォームとグーグルスライドを活用して自分のオリジナル号外を作ります。講師がプログラムで連携させ、とても簡単に号外を作れるようにしました。グーグルアカウントを持っていれば誰でも号外を作れるようになります。スマホで簡単に作成し、その場でブログやSNSなどに速報もできます。

また見出しの付け方、写真の扱い方、記事の書き方についても授業の中でアドバイスします。

部活動やサークル活動のニュース速報、家族新聞、アルバイトのチラシ作りなどで新聞号外にチャレンジしてみたい方、ぜひ受講してください。

※授業ではPCを使用します。教室には必ず自分のPCを持ち込んでください。またグーグルMeet、マイクロソフトWordの操作程度のPCスキルは必要です。

※事前にグーグルアカウントを取得するとともに、PCのブラウザとしてグーグルChromeを使えるようにしておいてください（Gメールが使えてChromeをダウンロードできていれば大丈夫です）。自分のスマホにもグーグルスライド、グーグルドライブなどのアプリをダウンロードしておくことにより使いやすくなります（授業で説明します）。

眞下 聡（まっか・あきら）

ニュース発掘発信アドバイザー・元朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。1989年朝日新聞入社。鹿児島で3年間の取材執筆経験の後、新聞編集者を20年以上つとめました。ニュースの価値判断から見出し・レイアウトまで精通した新聞づくりのプロです。またネット発信のスキルも豊富です。

2015年から8年間、教育総合本部・朝日新聞ジャーナリスト学校で社外向け講座を担当。学生・社会人・シニア、企業・NPO・各種団体など幅広い方々へ新聞の読み方や読まれる文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについてアドバイスしました。

2024年に朝日新聞を退社。「ニュース工房9Doors」を立ち上げ、ニュース発掘発信アドバイザーとしてみなさんのニュース発信を支える活動をしています。

駒澤大学ジャナ研での講座は今年で7年目です。

【言葉で学ぶか遊ぶか～ディベートゼミナール】

(火曜日・3時限講義)

石元 悠生

このゼミナールでは、書く、話す、聞く、伝えるのコミュニケーションスキルの向上を目指し、受講生がディベート（模擬討論）を通じて自らの考えを他者に正確に伝達し納得させることを学びます。多様性が問われる中で、自分とは異なる考えを持つ他者と論戦を行うことで、テーマに関わるさまざまな留意点を意識しながら効果的な表現に結び付け、相手との関係の中でしっかりした学びを繰り返し行います。

例年1～3年生が参加しています。講義で行うディベートは、その方法や効用を論理的に学ぶことではなく、言葉を駆使するゲームとして捉え、最初は個人対個人でできる簡単なディベートからはじめ、徐々にチーム同士でできるようになることを目指します。最終的にはディベート実践を行っている学内や他大のゼミやサークルとの間でディベート交流を積極的に行っていきます。ここ数年は学内の政治学科のゼミとディベート対戦を続けています。

昨年は、インカレディベート大会に初参加し、明治大学政治経済学部のゼミナールと「日本における緊急事態条項創設の是非」をテーマにディベート対決を行い、3-0の判定で見事に勝利を飾ることができました。今年も連勝を目指して頑張ります。

また、前期には、実際にディベートを行っている国会や都議会での論戦の現場や新聞社、テレビ局における編集、報道現場などを視察する予定で、国会議員や都議、一線の記者とのディスカッションも行います。ゼミナールの受講後にはレポート作成に関する能力や、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が向上するなどの成果が期待できます。

【お知らせ】

※9月から翌2月までの間にはディベートゼミナールとは別に、「就活の学び」で必要となる基礎やスキルを身に付ける自主ゼミ（木6限/本校）を開講します。例年3年生を対象とした学部横断の教養科目の延長として開講していましたが、今年からは研究所に所属する2、3年生を主な対象とします。研究所からは昨年度は7人が参加し、テレビ局や新聞社、通信社、商社、メーカー、金融機関、コンサル、行政（国や都庁、市区町村）などで将来のライフデザインを形成することを目標として学びを続けています。希望者は直接、連絡をとってください。

石元 悠生 (いしもと・ゆうせい)

メディア学博士。ジャーナリスト。星槎大学大学院教育学研究科教授（星槎大学共生科学部共生科学科教授）、早稲田大学総合政策科学研究所招聘研究員、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部講師。産経新聞社会部記者として警視庁や東京都庁、フランスW杯特派員などを担当、編集委員やWebニュース編集長を務める。米国・コロンビア大学東アジア研究所客員研究員の後、東京都知事特別秘書として2020東京五輪招致活動に携わる。杉並区報道アドバイザーなども歴任、著書に「東京五輪招致の研究」（成文堂）、共著に「ベーシック地域創生」（文真堂）、「無責任の連鎖 耐震偽装事件」（産経新聞出版）などがある。JA東京ホームページで「江戸東京野菜を語る」というコーナーを連載中。少年野球チーム「元芝ハヤブサ」代表。OBには千葉ロッテマリーンズで活躍する石川柊太投手らがいる。

【学生・社会人のための出版と編集 2026】

(水曜日・4 時限講義)

下 平 尾 直

読書や本が好きな方、自分で本や ZINE、ミニコミ、冊子を作ってみたい方、出版社に就職を希望する方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマやコミックで描かれるような華やかなギョーカイ？ それとも「出版不況」と報道されるように、暗くて地道で大変な仕事？

あたりまえのことですが、本は編集者が作って終わりではありません。問屋や書店、図書館、古書店などを経て読者の手許にわたり、やがて捨てられてしまうまでは永遠に残ります。10 年前、20 年前に出た本がいまでも書店で入手できるのは、じつに多くのステークホルダーが 1 冊の本に関わっているからです。

そこでこの講座では、出版業界の最新情報を織り込みながら、本を企画して読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、映像を観る、貴重な書籍や資料にふれてみる、校正や広告を作成する、第一線で活躍中の専門家をゲストにお招きする……などを通して、具体的な本づくり＝編集・出版のあれこれを学びます。

担当者は、一人で出版社を経営し、約 100 点の本を出し続けて 13 年目、この講座も 13 年目になります。

* 講義内容は、受講者数の多寡などによって臨機応変に変更いたします。

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968 年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライターや編集者を経て、2014 年、(株) 共和国を創業。2021 年には、出版粋会「第 18 回新聞社学芸文化賞」を受賞。駒澤大学ジャナ研での講義は、今年で 13 年目になります。

2026 年 3 月現在、藤原辰史『ナチスのキッチン』(第 1 回河合隼雄学芸賞)、川島昭夫『植物園の世紀』、東直子『レモン石鹼泡立てる』、村田哲郎ほか『たぬきの本』など、ジャンルを問わず約 100 点を刊行。著書に、『版元番外地：〈共和国〉樹立篇』(コトニ社)、編著に、武田麟太郎『蔓延する東京』、『永山則夫小説集成』(全 2 巻) など多数があります。

くわしくは日経 BOOK プラスのインタビュー (全 3 回) をご覧ください。

<https://bookplus.nikkei.com/atcl/column/051500508/012700013/>

【メディアリテラシー向上講座～事例から探るメディアのウソとホント】

(木曜日・2時限講義 ※前期のみ)

玉手 義 朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、この男は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」

バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど、様々なメディアから発信される情報に囲まれています。

これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。

講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組などの映像素材を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

さらに、「ジャニーズ性加害問題」や「フジテレビ問題」などについても、詳しく解説してゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

【モンテーニュの「エッセー」を読みながら現代を眺めてみよう】

(木曜日・3時限講義)

桑原 聡

モンテーニュの『エッセー』と、同書を現代日本の時事と接続する産経新聞連載「モンテーニュとの対話」を材料にし、喧騒の時代を生きるための思考の軸を養えばいいなど考えています。私はエドモンド・バークを源流とする保守思想の持ち主ですが、授業では政治的立場の是非を問うのではなく、出来事の背後にある「人間という存在」について考え、モンテーニュが大切にした「懐疑」「節度」「自己省察」について掘り下げていきたいと思っています

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、退職後も時事コラム「モンテーニュとの対話」や詩歌の新刊を紹介する「イチオン詩歌」を産経新聞に連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひぎにパパが読む絵本 50選』『わが子と読みたい日本の絵本 50選』(ともに産経新聞出版)、『〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ』(水声社)、新聞連載の「モンテーニュとの対話」をまとめた『寛容のすすめ』(海竜社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

【商品とサービスを消費者に届けるには】

(金曜日・2時限講義)

坂本 律行

この講座ではマーケティング行動についてのリアルなお話をしていきます。現代では商品を生産する会社、消費する人々は国境を超えて存在しており、どこであれ何かが起きれば直接間接の影響は大きいのです。昨今はインバウンドの旅行者の増減で大きな影響があり、またアメリカが関税の上げ下げを行うだけで、モノの値段や物流量が変動しています。受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、原材料を確保しないとイケない資材担当者であったなら、自身が商品を販売しなければならない営業マンであったならと講義の中で考えてもらおうと思っています。講義の間だけ企業競争を生きてもらおうつもりです。私は企業の行動や事実を見てきたようにお話していきますので、みなさんは購入してくれる消費者のことを考え、生産や物流がスムーズにゆくように、あらゆることを判断しないとイケない立場に身を置いてください。企業の社長になったつもりになってください。仮想の企業競争の経験は大学生のみならず中高年のみなさんの期待も裏切らないはずですよ。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきました。マーケティングリサーチ・分析業務のうち消費財メーカーのプロダクトマーケティングの他に資源エネルギー庁や沖縄県庁、那覇市、川崎市など官公庁の調査も行ってきました。株式会社坂本総合研究所代表。

【ニュースからドキュメンタリーまで テレビは何を伝えているか】

(金曜日・4時限講義)

田中剛志

テレビはどのように作られ、何を伝えているのでしょうか。ニュースからドキュメンタリーまで、視聴者の知らない世界を裏付け取材しながら伝え続けています。取材や制作の手法は、70年のテレビの歴史の中で確立されてきたものがあります。どのように作っているのか、対面でプレストしながら短尺のものから長尺のものまでその方法や見方を含めてお伝えしていきます。特に災害や事件・事故など命に係わる番組は何を伝えているのか、視聴検討します。また、同じ題材ながら作る会社や個人によって描き方が違う番組を比較検討していきます。この講義を通して、特に災害から命をまもるためのヒントを手に入れてほしいと思います。「オールドメディア」が何を伝えようとしているのか、番組を視聴しながら一緒に考えたいと思います。

田中 剛志 (たなか・ごうし)

1960年東京都生まれ 1986年日本放送協会入局 報道局で、クローズアップ現代、おはよう日本、ニュースウォッチ9等担当。ニュースからNHKスペシャル等のドキュメンタリーまで報道系の番組を制作。「NHKスペシャル 解かれた封印～米軍カメラマンが見たNAGASAKI～」 「NHKスペシャル性犯罪 再犯をどう防ぐか」 「クローズアップ現代 飲酒運転を撲滅できるか」等多数。現在、ケーブルテレビのニュース情報番組や防災防犯関連番組のアドバイザーを務める。また、災害情報学会に所属し、「一人の命も取りこぼさない」伝え方の研究も進めている。

名誉教授講座 【まちづくりと地域民主主義】

(水曜日・3時限講義 ※前期のみ)

早川 純貴

都市の魅力とは何か

都市の多様性と活性化のための条件

中心商店街衰退の原因

街おこしのための様々な試み：コンパクトシティという発想

事例研究①

事例研究②

迷惑施設をめぐる民主主義の手続き

地域のつながりとネットワーク

早川 純貴 (はやかわ・よしき)

1983年3月 大阪大学大学院法学研究科 博士前期課程修了 (公法学専攻・法学修士)

1987年3月 同研究科 博士後期課程 単位取得退学

職歴

1987年4月 駒澤大学法学部専任講師

1991年4月 駒澤大学法学部助教授

1993年4月から1994年9月 ドイツ・トリアー大学に客員研究員として留学

2000年4月 駒澤大学法学部教授

2025年3月 定年退職

2025年5月 名誉教授

名誉教授講座 【時事問題】

(水曜日・3時限講義 ※後期のみ)

浦田 早苗

時事問題を取上げながら、関連する事件問題を解説し、話し合う授業です。

序論；時事問題を学ぶ意義

痴漢冤罪など

不同意性交等罪など

危険運転致死傷罪など

婚約など

沖縄問題など

ジェンダーギャップなど

日韓問題など

イスラエル・パレスチナなど

身近な罪など

浦田 早苗 (うらた・さなえ)

1977年 学習院大学 法学部 政治学科 卒業

1986年 早稲田大学 大学院 政治学研究科 博士後期課程 単位修得

1986年 駒澤大学 法学部 政治学科 専任講師

1990年 同 助教授

1996年 同 教授

2025年 同 名誉教授

2026年度 ジャーナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00~14:20	法とジャーナリズム (竹田昌弘)			
2 時限目 14:50~16:10	【前期】【後期】 新聞号外の簡単 作成・活用講座 (真下聡)		【前期】 メディアリテラ シー向上講座～ 実例から探るメ ディアのウソと ホント (玉手義朗)	商品とサービス を消費者に届け るには (坂本律行)
3 時限目 16:30~17:50	言葉で学ぶか遊 ぶか～ディバ ートゼミナール (石元悠生)	【前期】 まちづくりと地 域民主主義 (早川純貴) 【後期】 時事問題 (浦田早苗)	モンテーニュの 「エッセー」を読 みながら現代を 眺めてみよう (桑原聡)	
4 時限目 18:00~19:20	【前期】 取材・編集、イン タビューの基本 を学びましょう (石元悠生) 【後期】 新聞編集の基礎 -記事・見出しか らレイアウト・写 真扱いまで- (真下聡)	学生・社会人の ための出版と編 集 2026 (下平尾直)		ニュースからド キュメンタリー まで テレビは 何を伝えている か (田中剛志)

【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）です。

前期・・・5月12日（火）～7月10日（金）

後期・・・9月15日（火）～11月13日（金）

※6月9日(火)～12日(金)、9月22日(火)、9月23日(水)、10月15日(火)、10月30日(金)、11月3日(火)は休講です。

【開講方式】

令和8年度は基本的に対面にて開講。講師によりオンラインにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはGooglemeetでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、WiFi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。

*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/kjps/lecture-guidance.html>



駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所 令和8(2026)年度 講義カレンダー(全16回)

前期:5月12日～7月10日

火	水	木	金
5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
火①	水①	木①	金①
5月19日	5月20日	5月21日	5月22日
火②	水②	木②	金②
5月26日	5月27日	5月28日	5月29日
火③	水③	木③	金③
6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
火④	水④	木④	金④
6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
6月30日	7月1日	7月2日	7月3日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

後期:9月15日～11月13日

火	水	木	金
9月15日	9月16日	9月17日	9月18日
火①	水①	木①	金①
9月22日	9月23日	9月24日	9月25日
		木②	金②
9月29日	9月30日	10月1日	10月2日
火②	水②	木③	金③
10月6日	10月7日	10月8日	10月9日
火③	水③	木④	金④
10月13日	10月14日	10月15日	10月16日
火④	水④		金⑤
10月20日	10月21日	10月22日	10月23日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑥
10月27日	10月28日	10月29日	10月30日
火⑥	水⑥	木⑥	
11月3日	11月4日	11月5日	11月6日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
11月10日	11月11日	11月12日	11月13日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

- ※ 教場：深沢キャンパス講義室2-1／オンライン（Googlemeet）
- ※ 教場は、学会などの都合により変更になる場合がございます。
- ※ 休講の際の振替講義は原則として行いません。

※ 大学の授業実施カリキュラムに則った講義スケジュールのため、祝日の開講・平日の休講が、混在していることがあります。ご注意ください。

駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所事務局 TEL 03-6381-8901 受付時間：月～金10:00～12:30／13:30～17:00 ※大学行事に則り変則的な休業日がございます
--